

寄稿「土木の絆」

(株)シーエスエンジニアズ 代表取締役

加藤 道雄

(昭和55年卒)

50周年おめでとうございます。

私が土木校友会に入会したのは、平成2年ぐらいいと思います。早いもので25年が経過しました。入会当時は世の中が土曜半日勤務時代で、土曜日の夕方から総会・懇親会が開催されていました。

私は、大学を卒業し建設会社の工事部門に在籍しておりましたので、卒業以来なかなか大学にもおろそか気味であり、まして大学の校友に対しても疎遠でした。仕事の関係で研究室の先輩との交流が始まり埼玉の土木交友会を知り入会に至りました。初めて参加した時は、知らない方ばかりでどのように対応して良いのか困っておりましたが、県の方や、OBの方々、民間企業の方々から声を掛けられ、何とか緊張の中、楽しく参加することが出来ました。また、卒業以来会う同級生も居りました。

懇親会には、多くの方が参加し楽しい一時でした。最後に歌う若きエンジニア、体育会系の先輩が前面に

立ちエールを上げ日大節。何か学生時代を思い出させてくれました。現在は、若手が無理やりやっているようですが、それもまた楽しく拝聴しております。

平成14年度以降から景気が低迷し、同じように校友会参加者が徐々に少なくなってきました。以前に比べ、民間企業の方の参加が少なくなったと感じています。50周年を機に活性化を図り多く同窓の輪を広げたいと願います。

この埼玉県日本大学土木校友会の趣旨は、卒業生の技術向上と相互の親睦を図ることを目的としています。(私は親睦に力を入れておりました)。

私は、仕事の関係で区画整理事業について勉強していた折、判らないことが多く悩んでいましたが、たまたま県の区画整理課に先輩がおられ、面識もないのに同じ桜であることを話したら、色々教えていただきました。また、参考になるよ

と個人的な資料まで貸していただいたことを思い出します。

また、市町村、民間の方々にも面会していただいた事も数多くありました。

私はこの様にいろんな先輩にお世話になることが多く、ある日研究室の先輩に、先輩たちはなぜこの様に後輩たちの面倒を見てくれるのか聞いたことがあります。先輩は私も昔、先輩に色々面倒をかけていた時代があり、一人前になって先輩にお礼をしようと考えたそうですが、その先輩からお礼を考えているなら、その分後輩の面倒を見てやってくれと、言われたそうです。これが、埼玉県日本大学土木校友会だと感激いたしました。私も記念すべき50周年の年に定年を迎え、どれだけ後輩の面倒を見る事が出来ているのか、考えてしまいます。これからも、続く土木校友会の一員としてまだまだ、しっかりとよき先輩として行動して行きたいと思います。

最後に、当会員であります。一場駿(当社会長で研究室の先輩)は27年春 黄綬褒章を受章されました。50周年に花を添えていただきました、ご報告いたします。